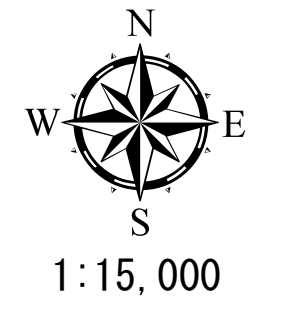
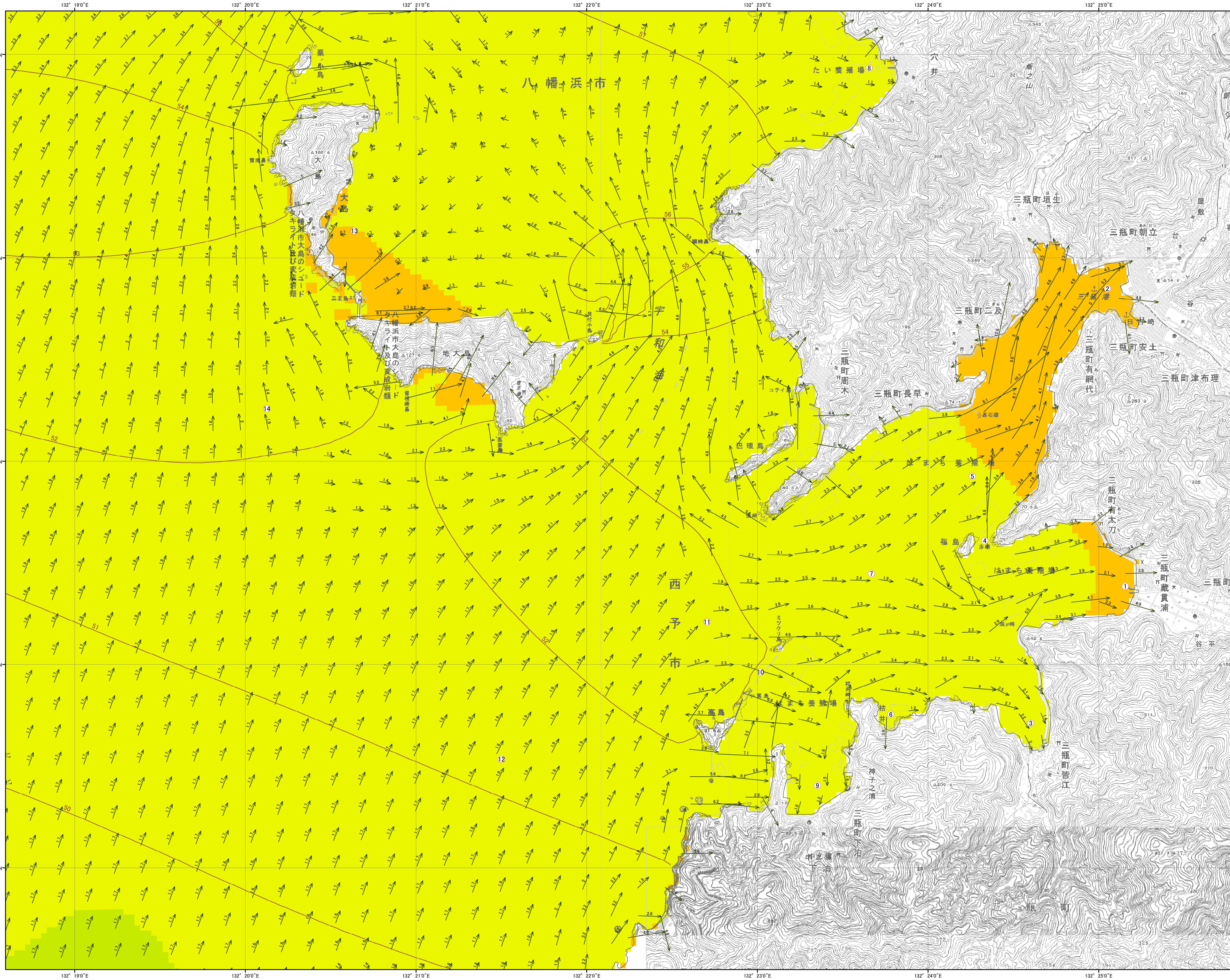


# 三瓶港 津波防災情報図 (進入図)

計算条件：最高水面（零位）  
 隆起量：平均 -95cm (-105cm ~ -88cm)  
 Zo：1.30m  
 備考：本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。



座標系：メルカトル図法  
 測地系：世界測地系 (WGS84)



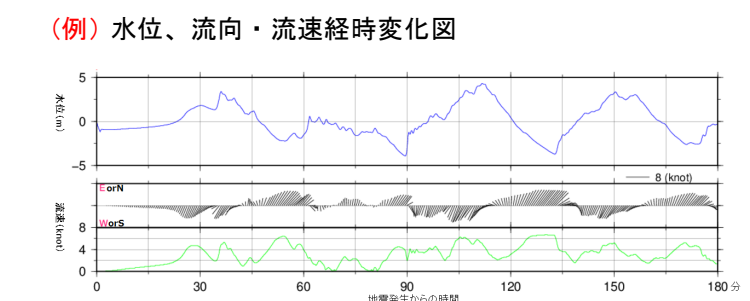
## 凡例

— 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]

最大水位上昇

- 5~最大7.9m
- 3~5m
- 2~3m
- 0.5~2m
- 0.5未満

○ 経時変化図出力点  
 (図上の位置における津波の挙動を別図の経時変化図で示す。)



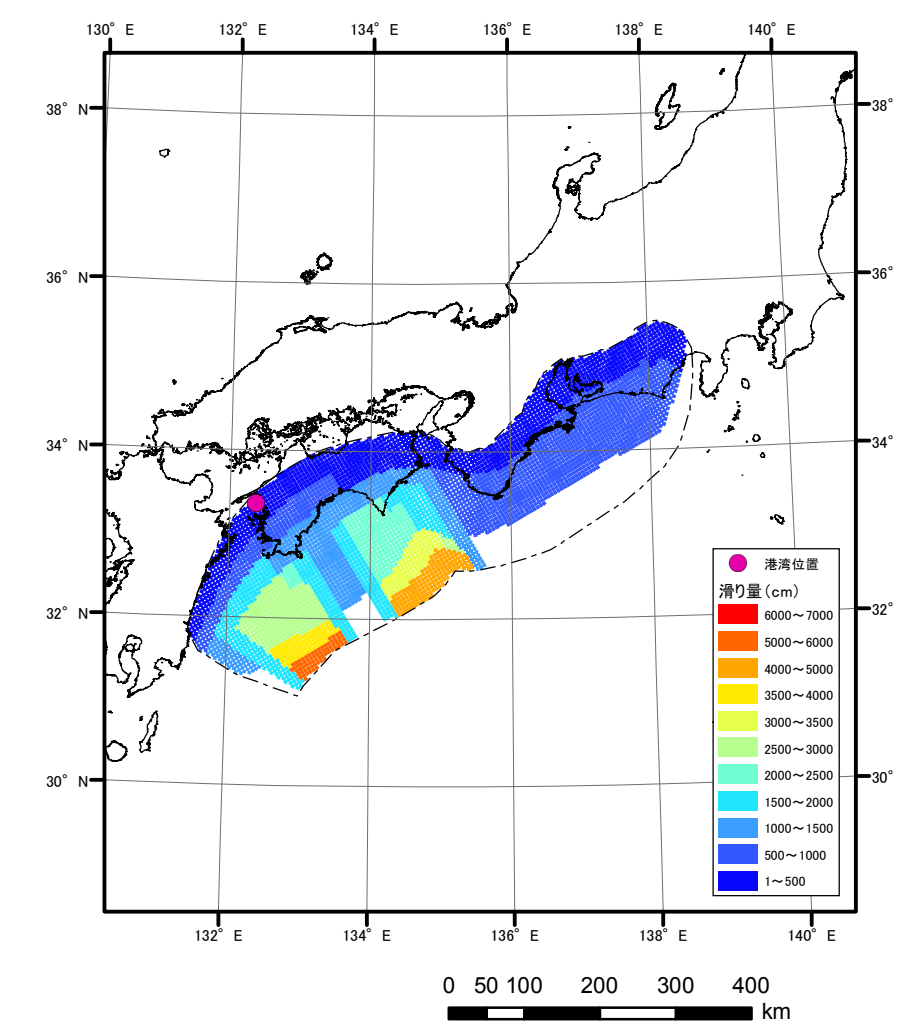
進入時最大流 (knot)

- 3 knot
- 2 knot
- 1 knot

○ 津波の到達時間は、水位が最高水面から10cm変動した時点を出している。

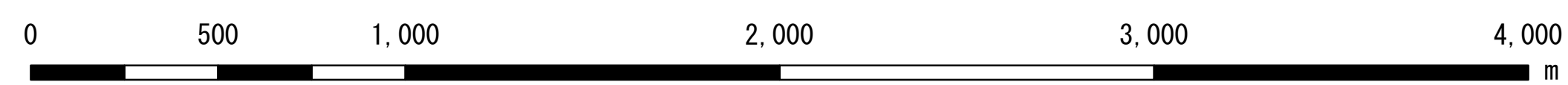
○ 防護施設は、震度6弱以上の地域であるため、地震発生から3分後に破壊すると計算している。

断層モデル



ケース⑪「室戸岬沖と日向灘に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km <sup>2</sup> )	140,000
地震モーメント Mo (N·m)	6.6 × 10 <sup>23</sup>
平均すべり量 D (m)	11.2
モーメントマグニチュード Mw	9.1



○ 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10 対応)」を使用した。  
 ○ 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。  
 ・海上保安庁が保有する水深データ  
 ・基礎地図情報5mメッシュ (標高)・10mメッシュ (標高)、及び数値地図25000 (地図画像) (国土地理院発行 国土地理院長承認 承認番号 平24情使、第911号 平成25年3月29日)

本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会 (第二次報告) (平成24年8月29日発表)」により公表されたものである。  
 使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、本図の区域において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。